

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は「学習活動（教科指導の充実）」「学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）」「進路支援（進路目標の設定とその実現）」「特別活動（ボランティアと図書）」「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」の5項目を重点項目とし実践した。いずれの項目についても生徒の実態に合わせて目標を設定した。

(1) 「学習活動（教科指導の充実）」

今年度の互見授業は例年通り1学期と2学期に実施した。ICTを活用した授業研究が進み、互見授業の参観回数の目標を達成することができた。オンラインによる研修にも積極的に参加し、自己研鑽を行った教員も多かった。また、ICTサポーターやGIGAスクールサポーター等による研修や新学習指導要領に沿った評価に伴う校内研修を行うことができた。授業改善に向けて更なる情報共有や研修が不可欠である。各学期に行った生徒の学習に対する自己評価は、昨年とほぼ変わらないが、例年1学年2学期から2学年にかけて取り組みが停滞する傾向にあることが懸念される。早い段階から進路目標を設定し、学習意欲を高いまま維持する必要がある。

(2) 「学校生活（生徒指導の充実と健康な心身の育成）」

今年度も定期的な挨拶・服装指導を行い、生徒は概ね良好な状態である。コロナ感染症対策として行ってきた健康観察、手洗い、消毒、換気などはすっかり定着している。

教育相談では、心の悩みを抱える生徒が複数いたが、スクールカウンセラーや外部機関と連携しながら共通理解を図り、必要に応じて追加の要請支援を受けることで対応することができた。

(3) 「進路意識（進路目標の設定とその実現）」

今年度もPTA主催の「職業人が語る会」を実施することができた。また、大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話を実施し、学習の意義や進路意識を高めることができた。受験への取り組みに対する満足度は61%と目標（60%以上）を達成することができた。

(4) 「特別活動（ボランティアと図書）」

コロナ対策を講じて実施したボランティア活動について、生徒が主体的に考え探し出した活動を行うことで、目標を上回って達成することができた。図書の活動においても「読み聞かせボランティア」を継続することができた。また、生徒の読書量（全校生徒の年間貸出総数）でも目標を大きく上回って達成することができた。

(5) 「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」

国際理解教育においては、例年、英語学研修が大変大きな成果を得ており、その成果をいろいろな機会を捉えて、生徒に発表していくことを継続的に行ってきた。しかしコロナ禍のため、昨年度に引き続き今年度も英語学研修を中止せざるをえなかった。その代替研修として、ニュージーランド学生と交流するオンライン研修を3月に実施した。

GTECの目標得点と実用英語技能検定の取得率が目標を下回った学年があったが、現3年生は、新型コロナウイルス感染症のため入学式直後から2か月間の休校があり、様々な学習活動や学校行事が中止、縮小された中で高校生生活を送ってきた。本校の英語力向上のための独自行事等の実施も大きく制限されたことが、英語力を十分に伸ばしきれなかった要因の1つかもしれない。

7 次年度に向けての課題と方策

- ・新学習指導要領と観点別評価が導入されて1年が経った。手探りの状態で日々の授業を工夫し、新しい評価方法を確立しようと試行錯誤を重ねた1年間であった。
- ・県下で唯一の英語コースをもつ学校として、実践的な英語力を身に付けさせるための方策を今後も研究していきたい。GTECの分野別成績では、スピーキング、リスニング、ライティング分野の伸びが顕著であり、本校がねらいとしている実践的な英語力の向上の成果が出てきていると言える。今後もさらなる向上を目指したい。
- ・キャリア教育の一環として講演会の設定を工夫し、生徒一人ひとりが進路目標を定め、自己を振り返りながら主体的に学習できる取り組みを、評価と合わせて考えていく必要がある。
- ・今後もボランティア活動について生徒自身が探しだし、実践できる可能性を模索する。
- ・コロナ終息に向けて、海外語学研修再開に向けての準備を進めていく。